

第5回協議会の意見(概要)

8月22日の第5回協議会における委員の意見及び第5回協議会開催後、ご意見提出用紙でいただいた意見の概要です。

内容構成

- 1 地域資源
- 2 土地利用
- 3 道路・交通ネットワーク
- 4 その他の意見

1 地域資源

歴史・文化資源の活用

- ・ 禅昌寺が持つポテンシャルを生かし、座禅会や写経会など、地域外やインバウンドの来訪者も参加できる取組をPRすることで、**地域資源及び観光資源として活用**できる。

里山民家・総合体育館の活用

- ・ 里山民家や総合体育館はそれぞれの施設だけを目指して出かけるには物足りなさを感じる。**施設への道のりも含めて地域を活性化できるような事業誘致**ができると良い。
- ・ 子どもから高齢者まで楽しめるスポーツプログラムの検討や、総合体育館だけでなく、地区会館や家庭でもできる**シニア向けの健康増進プログラムが充実**すると良い。

高校生・若者の活動と居場所

- ・ 高校生の視点を提言に取り入れ、安全な通学環境に加え、ダンスなど、**学校ごとの特色ある活動ができる場所**や、**W i - F i を利用できる場所を整備**すると良い。
- ・ 放課後の若者の居場所づくりは大切であり、**三ツ木地区学習等供用施設に飲食スペースがあれば、武蔵村山高校の生徒やその他の若者も利用**すると思う。

2 土地利用

商業環境の充実

- ・ No. 5 駅周辺は、住宅が増えている一方で商業施設がほとんどない。スーパーマーケットや飲食店など、**No. 5 駅周辺の商業環境の充実**を推進してほしい。

地域の店舗に関するPR

- ・ 昔からある小規模店舗が武蔵村山市の魅力である。そうした店舗の情報を冊子にまとめて配布するなど、**地域の店舗をわかりやすく紹介する取組**ができると良い。

3 道路・交通ネットワーク

モノレールを利用した市内の回遊

- ・整備された遊歩道を歩いて地域資源を訪れ、大型商業施設に立ち寄り、またモノレールで帰るといった**回遊の仕組み**が考えられると良い。
- ・モノレールを使って市内のいろいろな場所へ行けるようになれば、市内の行き来が楽しくなりそうである。
- ・武蔵村山市に住んでいる人は鉄道に乗る生活が定着していないため、モノレールを利用してもらうためには**駅へのアクセスが重要**である。

道路工事中の通学路の確保

- ・残堀川沿いや新青梅街道の自転車通行空間が拡幅されると通りがよくて良い。一方で、工事により通学路が通れなくなると、通学に時間がかかってしまうため、**工事中でも通れる道を確保**してほしい。

4 その他の意見

提言の構成

- ・提言の要旨として掲げている3つの要素を大々的にアピールし、**視覚的に分かりやすく、委員以外の人が見ても興味を持てる提言書**になると良い。
- ・No. 5駅には武蔵村山高校、総合体育館、里山民家などさまざまな地域資源があるため、それらの**地域資源をもっとアピールしたほうが良い**。近くにある資源を効果的に活用し、**市内外からの来訪者も立ち寄れるNo. 5駅**という点を重視すると良い。

提言の実現に向けた取組

- ・提言の実現にあたっては、**市民や若者の協力を後押しすべく**、「モノレール沿線で何かやりませんか」というメッセージを発信し、**活動を希望する人が手を挙げられる窓口**があると良い。
- ・この提言を踏まえて市が具体的な構想を検討する際、**要点ごとにKPIを設定し、具体的な事業手法を検討すると**、より精度の高いまちづくりにつながる。また、他駅での提言書を含めて、今後まちづくりを検討する中で、**庁内横断的なプロジェクトチームを立ち上げる**ことで、より具体的なまちづくりにつなげてほしい。

その他

- ・外観の統一についても興味がある。
- ・送迎保育ステーションは便利な施設だと思うが、**保護者と保育士との信頼関係の構築を含めて検討**してほしい。